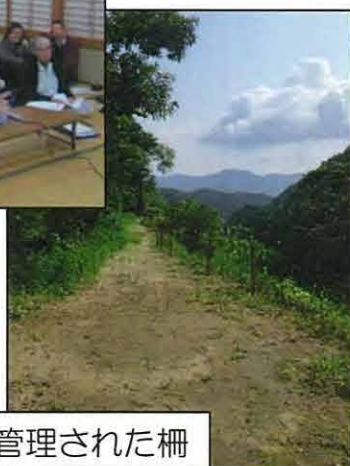




キレイに収穫できました。
実は昨年まで放棄地でした。



研修会の様子



キレイに管理された柵

平成27年度に相談。
地域のなかで、柵を設置したい方としたくない
方が混在。どうしたものか？
とりあえず、設置するしないは別として、研修
会をしてみないか？と提案。

研修前に地域の事前調査を行うと、青色LEDや
赤色灯、防犯ライト、犬の音がする機械など、
効果のない対策の数々を発見。

研修では効果のない対策と効果のある対策を説
明し、どうすれば地域の農地を守れるか提案。

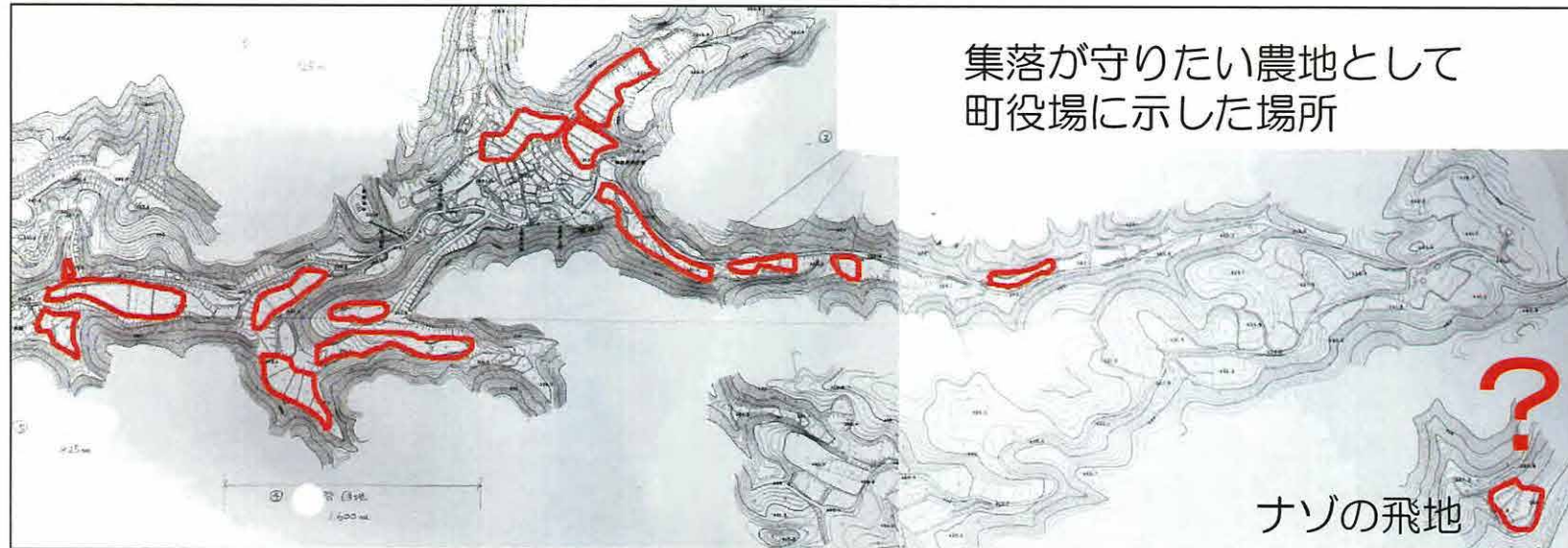
最も被害が大きく、放棄せざるをえなかった農
地についても守り方を提案。
全員一致で柵を設置することに！

平成28年度以降、被害発生していません。



柵設置前の被害の様子

本当にそこは「守る」べき農地ですか？

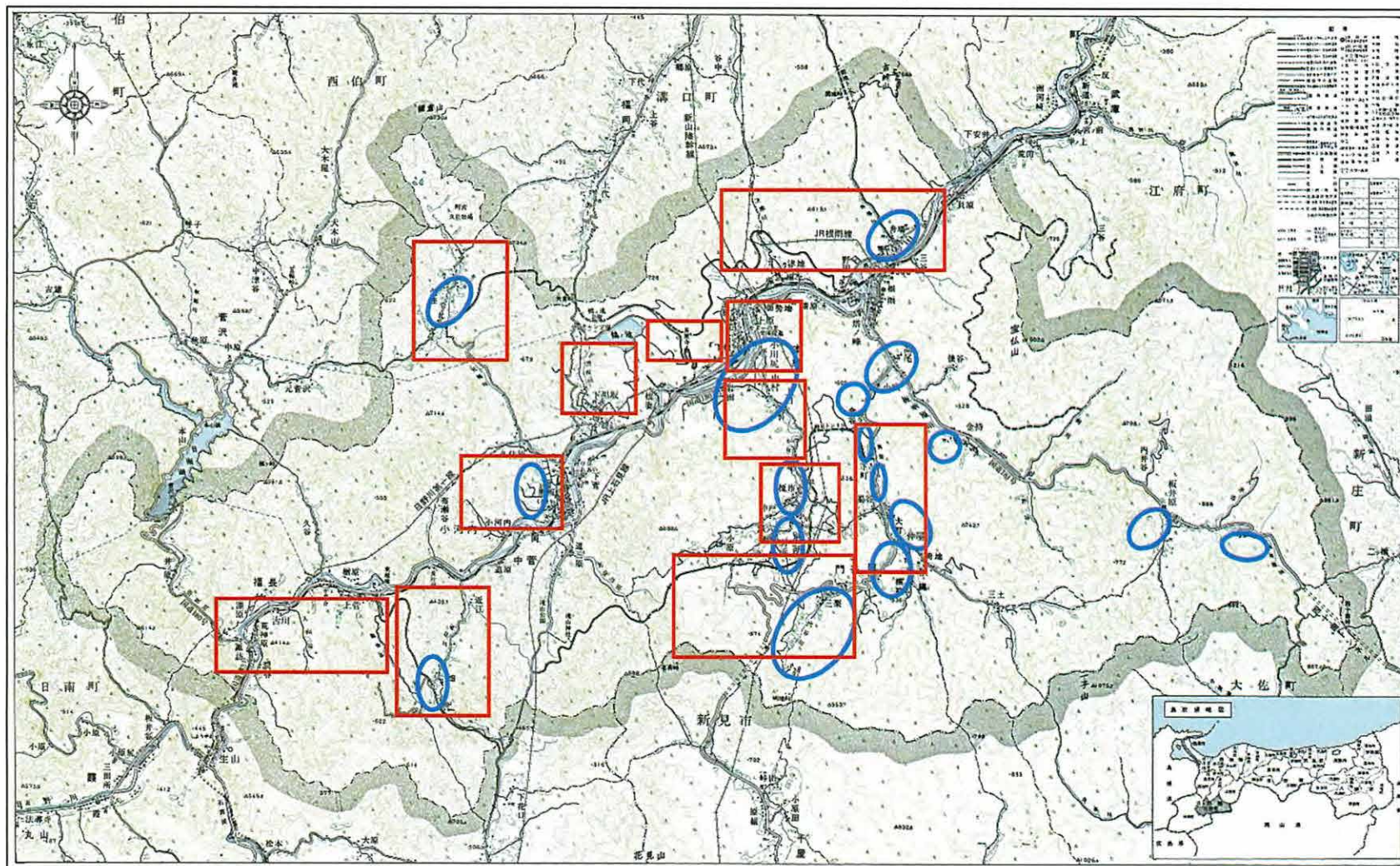


農地につながるはずの…廃道？



休耕地？ 耕作放棄地？

人・農地プラン＋侵入防止柵設置集落



担い手への農地集積を考える中で、鳥獣対策は必須となっている。

とはいえ、農地は担い手だけで守るもの？

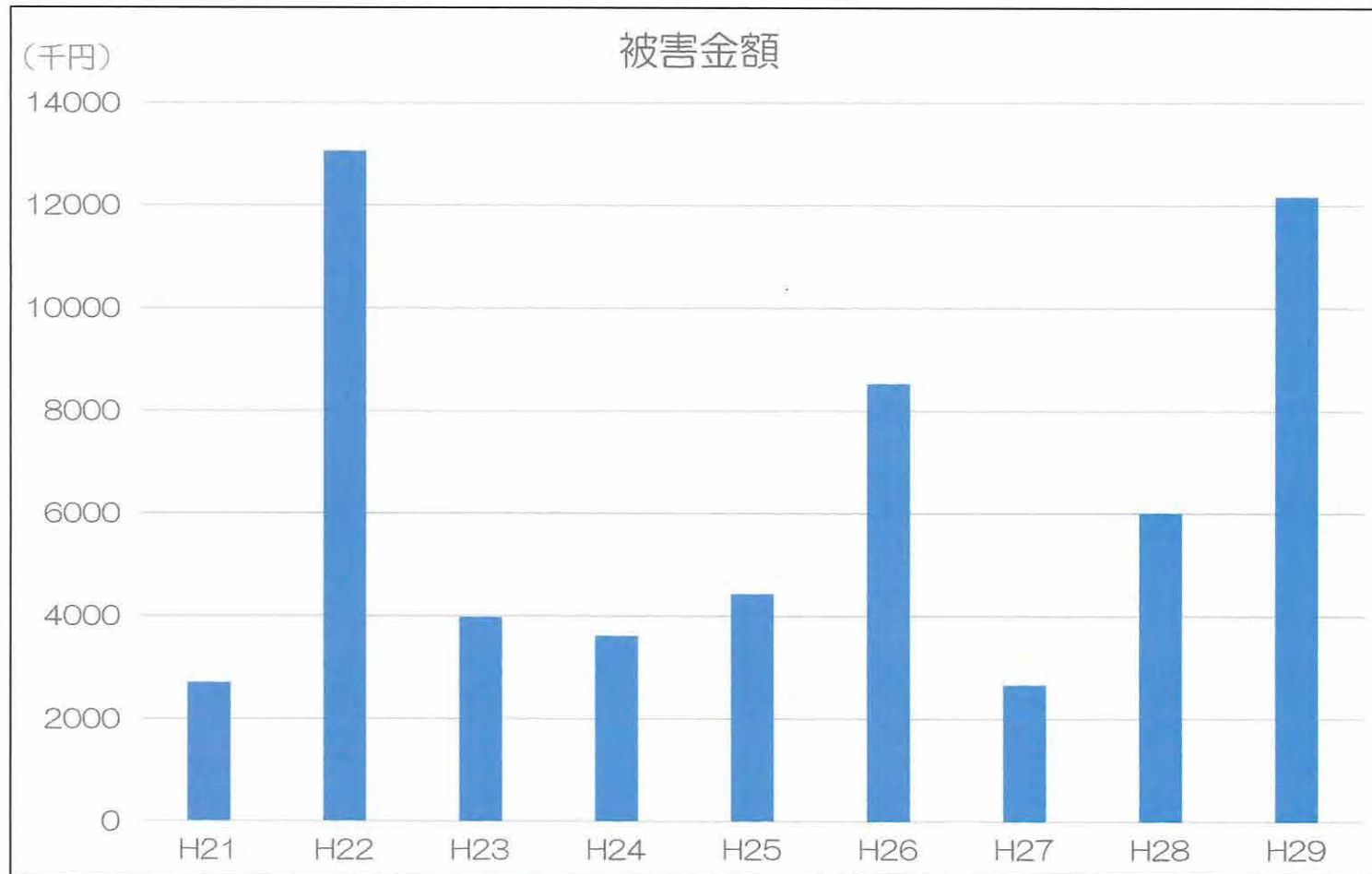
農地を農地として利用するには、農地に付帯する施設(水路や柵等)の維持管理も必須である。
それらの管理まで担い手だけで行うのは大変！



集落ぐるみで実施する鳥獣対策は、集落の人を集め、一緒に学び、考え、活動する機会を提供できる。

➡鳥獣対策を通じて、
集落機能の維持を図る！

でも被害額は減っていない…なぜ？



H29年は、畦畔の掘返し、水路の埋立などの被害が多発。
被害のある地域とない地域に二極化してきている。

被害が発生している地域

- ①廃棄物や放任果樹が多い。
- ②効果のある対策を実施していない。
- ③効果のある対策と効果のない対策が混在している。
- ④集落や農地を柵で大きく囲んでいるが、
山側だけの設置や道路・河川などで途切れている。
- ⑤集落や農地を柵で大きく囲んでいるが、
点検・補修ができていない。



※十全な対策が行えていない、又は対策を行っていない集落の場合、周辺集落が十全な対策を行うと被害が発生しやすい。

補助金を使って大ぐるみの柵をしてしまったところは…
補修計画にかなり労力が割かれます……。

「負債」を増やさない活動から減らす活動へ



効果が発揮できていない「お守り」のような柵を、効果の発揮できる柵（設置位置、維持管理体制の再構築など）に作り変えていくかが、今後の課題…。



平成23年度にWM柵設置。

平成29年、収穫直前にイノシシが侵入。
食害、踏み倒し等で、左写真5枚の田んぼ
を含めた8枚が壊滅。

収穫できなかった稲をそのままにしていた
ため、冬期も侵入し、柵のダメージが大き
くなる。



平成30年3月に相談され、実施隊で
WM柵を点検すると、131カ所の補修が
必要な場所が見つかる。
イノシシについての学習会を行う。
設置位置の変更、部材の交換、補強など
地域全体で取り組み、131カ所を補修。

捕獲檻を設置。エサやり方法を学んでいた
だき、捕獲補助を行ってもらう。

平成30年10月、無事に水稻収穫！

「入れない」対策から「寄せない」対策へ

- ①新規に「入れない」対策を実施する集落に対して正しい知識の提供と適切な柵の設置を推進する。
- ②過去に守りきれない対策を実施した集落に対して正しい知識の提供と柵の補修を推進する。
- ③「寄せない」対策の推進。
今後の課題です。
考えていることはあるのですが、まだ現実的には取組めていないので、お話しできません。
すみません…。



「捕まえる」対策については？

当地では、「農地を守る」ということにおいては、
「捕まえる」対策は、あくまでも補完的な対策だと
考えています。

- 獣種や林業被害においては、重要度が高くなる場合もある。
- 捕獲を集落で取り組みたいという意欲が高いのであれば、そこを糸口に推進しても良いと思います。

地域の状況に合わせて、
推進すれば良いと思います。

